

## P1-382 反復体外受精不成功例に対する自己リンパ球子宮内注入の有効性について

徐クリニック不妊センター

徐 東舜

【目的】反復体外受精不成功例の原因として着床障害が考えられ、近年着床に免疫細胞の関与が示唆されている。そこで今回我々は、体外受精の不成功例に胚移植の前に自己リンパ球を子宮内へ注入し、着床率の向上に有効かどうか検討した。(対象)2005年8月から2006年4月の期間で、事前の胚移植で妊娠に至らなかった症例の中でインフォームドコンセントが得られた46症例(平均既往移植回数3.0回、平均年齢37.6歳)に61周期実施した。(方法)採卵後2日目に患者から血液20ml採取し、Lymphoprep Tubeで血液からリンパ球を分離し生食で3回洗浄後、0.3ml子宮腔内に注入した。注入したリンパ球数は2000万から5000万であった。さらに、その2日後(採卵4日後)に子宮内に胚移植をした。(成績)61周期に移植を実施し、21周期の臨床妊娠(周期当たり34.4%)、合計137個を移植し28個の着床をみた(胚1個当たりの着床率20.8%)。(結論)胚移植前の自己リンパ球子宮内注入は、反復体外受精不成功例に有効である可能性が示唆された。

## P1-383 不妊症患者の抗リン脂質抗体出現頻度

群馬大

伊藤理廣, 五十嵐茂雄, 岸 裕司, 田村友宏, 池田禎智, 峯岸 敬

【目的】最近不育症の原因として凝固第XII因子の欠乏症と自己免疫異常特に抗リン脂質抗体が約20%程度に関与していると言われている。不育症患者において抗血栓療法としての低用量アスピリン療法とヘパリン療法の併用療法の有効性につき報告してきた。すなわち凝固第XII因子欠乏症、あるいは抗フォスファチジルエタノールアミン抗体(aPE抗体)陽性患者に対して十分なインフォームドコンセントの上、妊娠判定直後より低用量アスピリン療法(バファリン 81mg/day)とヘパリン療法(カプロシン 5000単位皮下注12時間毎)をおこなった。低用量アスピリン療法とヘパリン療法の併用療法の効果が7割程度と、比較的高いと考えられた。最近ARTの患者に対してスクリーニング的に抗リン脂質抗体を測定する施設が散見されるが、その意義について検証した。【方法】2005年6月から1年間にインフォームドコンセントの上、凝固XII因子、aPE抗体、抗カルジオリピンβ2GPI抗体とループスアンチコアグラントの測定を施行した。【成績】XII因子欠乏症は不妊症群で25.8%(8/31)不育症患者42.9%(12/28)であった。aPE抗体の陽性率は不妊症群で10.3%(4/39)不育症患者19.1%(9/47)であった。抗カルジオリピンβ2GPI抗体とループスアンチコアグラントは両群で検出されなかった。【結論】不妊症の中にもXII因子欠乏症とaPE抗体陽性例が若干存在した。これらの患者はOHSSの兆候がある際は可能な限りの回避策をとり、OHSS症状の消失するまでは、抗凝固療法を続けるべきであろう。それ以外の場合は現時点で抗凝固療法を可とするエビデンスは乏しい。

## P1-384 胚盤胞形態評価と周産期予後との関係

竹内病院トヨタ不妊センター<sup>1</sup>, 浜松医大<sup>2</sup>俵 史子<sup>1</sup>, 石井美都<sup>1</sup>, 金山尚裕<sup>2</sup>

【目的】妊娠の成立、維持には胎児側の絨毛細胞と母体側の脱着膜の相互作用が大切である。胚盤胞の栄養外胚葉(TE)は絨毛細胞に分化し胎盤になる。移植時の胚盤胞形態評価が、妊娠成立後の妊娠合併症、出生児の状態と関連するか検討した。【方法】2004年6月から2005年11月に単一胚盤胞移植を行った178周期のうち、分娩まで経過を追えた52症例についてTE及び内細胞塊(ICM)との関連を検討した。TE評価は細胞の均一性を指標とし、a:全周にわたって細胞形態が均一、b:50%以上が均一、c:50%以上が不均一、の3段階で評価した。ICM評価は、ガードナー分類に基づきA、B、Cの3段階とした。【成績】男児27例、女児25例で出生児体重は3150g±318g、3031g±354gであった。TE評価別では、平均値a群3171±277g b群2982±283g c群3118±505gで、a、b群間で有意な差を認めた(p<0.02)。ICM評価では、平均値A群3154±336g B群3029±332g C群2810±251gで、A、C群間で有意差を認めた(p<0.03)。出生時身長、在胎週数との間に有意差は認められなかった。妊娠合併症の発生頻度の間に傾向は認められなかったが、緊急帝王切開率は、TEの評価が低いc群で70%と最も高かった。【結論】胚盤胞評価と出生児体重に関連が認められた。妊娠合併症との関連は確認できなかったが、TE評価が低い胚盤胞で妊娠した群で、緊急帝王切開率が高いことは興味深い結果であった。胚盤胞のTEが胎盤に分化することから、移植時の胚盤胞評価がその後の妊娠、分娩の経過に影響することは十分考えられる。今回の結果は発生初期の胚の状態がその後の胎児発育、分娩の経過に関わることを示す所見と思われた。